

中央大学杉並高等学校 学校通信



杉燦

中央大学杉並高等学校

総務部発行

2022年度第4号(通算107号)

<https://www.chusugi.jp>

〒167-0035 杉並区今川 2-7-1

☎03-3390-3175

無断転載禁止・不許複製

58期生 卒業おめでとう!

2023年3月9日(木)、第58回卒業式が本校第一体育館にて行われました。10時開式、卒業生・教職員・来賓・保護者の方々(一家庭につき2名が入場可、卒業生教職員のマスク着用は必須でなく任意)が参列。58期生男子144名、女子168名、計312名の名が呼ばれ、一人ずつ壇上で卒業証書を受け取りました。中杉卒業生は18,485名となりました。



卒業式次第

開式の辞	校長	大田 美和
卒業証書授与 各種賞状授与 記念品贈呈		
学校長式辞	校長	大田 美和
祝辞	中央大学 商学部長	井上 義朗
在校生代表挨拶	二年八組	M・R
卒業生代表挨拶	三年一組	H・K
校歌斉唱		
閉式の辞		



「一隅を照らす」

中央大学杉並高等学校長 大田 美和

五十八期の生徒の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。本日は、来賓の皆様にも多数ご列席いただきまして、ありがとうございます。

卒業生の皆さんは今、三年間の高校生活を振り返りながら、楽しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、苦しかったこと等、たくさんの思い出が一杯になっていることでしょうか。

私も皆さんと一緒に三月末でこの学校を去ります。校長を務めた四年間、生徒の皆さんに、繰り返しノブレス・オブリージの話をしてきました。今日もノブレス・オブリージの話をしたと思います。

ノブレス・オブリージとは、高貴な者に課せられた義務という意味です。十六世紀のイギリスの詩人サー・フィリップ・シドニーが、

戦場で重傷を負ったとき、一杯の水を飲ませようとした部下に対して、私よりもその水が必要としている人がいると言って、自分の近くに倒れている兵士に一杯の水を譲ったというエピソードが有名です。

このように説明すると、自分は貴族でも歴戦の勇者でも才能ある詩人でもないから、ノブレス・オブリージとは関係ないと思うのではないのでしょうか。そんなことはありません。中杉で学んだ皆さんは、三年間とても恵まれた学校生活を送ってきました。皆さんにはその恵みを社会にお返しする義務があります。

皆さんの高校生活は、緊急事態宣言下の突然の全国一斉休校から始まりました。その後の学校生活は、かなりの制限と変更はありましたが、できる限り実施することができました。先生方が知恵を出し合って協力して下さったおかげですし、生徒の皆さんが感染予防のための注意を守ってくれたおかげです。今年度は体育祭も音楽祭も中央大学多摩キャンパスで実施できました。先週は、劇団四季のミュージカル「アナと雪の女王」を皆で見に行つて、愛と勇気の価値を信じて前向きに生きることの大切さを学ぶことができました。

二年生の阪神・淡路方面の研修旅行、覚えていますか。ホテルオークラ神戸に泊まりましたね。一流のシェフが腕をふるったコース

料理を、大宴会場で全員が一斉に前を向いて黙って味わいました。当時の感染状況では、やむをえないことでした。あのホテルで働いていた人たちが、見事なまでに徹底したホスピタリティの精神によって鍛えられていたことに、皆さんは気づいていたでしょうか。

ホテルのロビーには、ホテルの年表が飾られています。最初の東京オリンピックのときの、世界最高のホテルを作るという強い思いが、会社組織は変わっても、今も受け継がれていることがわかりました。このような一流のホテルに研修旅行で滞在した皆さんには、その経験にふさわしい一流の人になってほしいと願っています。

あの研修旅行では、阪神淡路大震災を経験した人たちが「東京からよく来てくれた、ありがとう、過去の経験に学んで将来に備えてくれる頼もしい若者たちだ」と、歓迎してくれましたね。皆さんがどれぐらい大きな期待を背負っているかわかったのではないのでしょうか。このような期待を重荷に感じすぎたはいけません、折にふれて思い出して下さい。

皆さんは、高校三年間を通して、仲間と協力しながら何かを作り上げていく喜びと手応えを実感して来ました。それとは別に、自分で見つけた学校の外の、社会における活動に、勇気を奮って小さな一歩を踏み出した人たちもいましたね。私の元に届いた活動はほんの一部で、目立たないところで小さな一歩を踏み出した人は、実はもつとたくさんいたのではないのでしょうか。ノブレス・オブリージを実行するということは、必ずしも、みんなから認知されて高い評価を与えられるということではありません。

二学期の始業式で私が紹介した、映画『荒野に希望の灯をともし』を覚えていますか？アフガニスタンで灌漑工事に取り組んで、砂漠を緑の草原に変えることに貢献した医師の中村哲さんは、「一隅を照らす」という言葉が好きだったそうです。一隅を照らすとは、比叡山延暦寺を開いた最澄の言葉ですが、簡単に言い換えると、自分のいる場所で、目立たなくとも、自分にできることをいっしょけん

めいに実行するという意味です。

今日配布された「後援会だより」に、校長からの「贈る言葉」として、「一隅を照らす」と同じような言葉を引用しました。フランスの作家ロマン・ロランの長編小説『ジャン・クリストフ』に出てくる言葉です。「ヒーローとは、自分のできることをした人だ。他の人はそれをしないだけだ。」という言葉です。「ヒーローとは、自分のできることをした人だ。」と聞くと、皆さんの中には、高校時代に自分のできるのなら全部やりましたと胸を張れる人も少なくないかもしれません。一生懸命勉強していい成績を取ることができた人や、毎日練習に励んで大会で優勝することができた人がいるでしょうね。素晴らしいことです。心から拍手を送りたいと思います。

しかし、ノブレス・オブリージを持つている人は、それだけで満足してはいけません。自分のできることを、自分の利益にするだけではなく、社会のためにも、少しでもいいので、使ってください。この社会には、できることがありながら、それをしない人があまりにもたくさんいます。人が持っている力を発揮しないのは、その人のためにも、その人がいる社会のためにも、もったいないことです。みんなが自分のできることを少しだけすれば、この社会はさらに良い場所になるのではないのでしょうか。

皆さんの中には、まだ自分が気づいていない力、何かできる力が眠っているのではありませんか。皆さんが高校を卒業した後、新しい環境で新しい仲間とともに、自分のできることをどのように見つけて、実行していくのか、楽しみにしています。

最後に、毎年卒業式のたびに、卒業生に送った英語の言葉を皆さんにも送ります。Keep open-minded. いつもオープンマインドでいて下さい。開かれた心はたくさん人の栄養を吸収することができますし、たくさんの人に歓迎されます。皆さんの将来にたくさん幸いです。皆さんの人に歓迎されます。また、中央大学で、あるいは日本や世界のどこかでお会いしましょう。

祝辞



中央大学商学部長 井上 義朗

中央大学杉並高等学校の卒業生のみなさん、このたびはご卒業、誠におめでとうございます。また、これまでの長い年月ご子女と苦楽をともにされ、支えてこられたご家族、ご関係の方々、そしてこの三年間、厳しい状況の下で生徒さんたちを導き、見守ってこられた多くの教職員の方々に對しても、心よりお祝い申し上げます。さらに、後援会の皆様方におかれまして、日頃からの本校と本学へのご理解とご支援に對しまして、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

卒業生のみなさんは、高校生活の大半を、新型コロナウイルスの感染拡大の下におくるといいう、たいへん厳しい経験をされました。授業にせよ、部活動にせよ、そして毎日の学校生活にせよ、様々な制約の下でたいへん不自由な思いをされたことと思います。なかなか友達ができなかったり、勉強が思うように進まなかったりということも、多々あったことと思います。それでもみなさんは、そうした状況に負けることなく、本日この晴れの日を迎えるに至りました。それだけでもじゅうぶんに立派なことであり、自信をもってよいことです。どうぞ、この三年間の経験を糧に、四月からの新しい生活へ、力強い第一歩を踏み出して下さい。

中央大学もまた、この春から新たな一歩を踏み出します。この四月から、法学部と大学院法学研究科は、新しい都心キャンパスである茗荷谷キャンパスに移転します。また、法務研究科ならびに戦略経営研究科が、新しい駿河台キャンパスに移転します。それに伴い多摩キャンパスも、新しい将来構想の実現を目指して、いま着々と準備を進めています。中央大学へ進学されるみなさんは、まさしく新しい中央大学の第一期生とも言える存在になります。どうぞみなさんの力で、今まで以上に活気のある、新しい中央大学を築いてください。そして中央大学以外の進路に進まれる方も、杉並高校で学んだことを存分に活か

して、それぞれの世界に羽ばたいていってください。

むかし、ある経済学者がこんなことを言いました。「およそ経済学を学ぶ者には二つのものが要求される。ウォームハートとクールヘッド(暖かい心と冷徹な頭脳)である」。これは、経済学にかぎらず、すべての学問について言えることだと思います。学問を学ぶにはいつさいの心情に左右されない「冷徹な頭脳」が要求されます。それは時として、険しい山を登るのにも似た辛く厳しい日々になります。しかし、そうして身につけた冷徹な頭脳を誰のために、何のために使うのか。それは同じ時代を生きる人たちが何を求め、何に困っているかを想像する「暖かい心」があつてはじめて見えてくるものでしょう。この二つのうち、どちらか一方でも欠けてしまうと、それは本当の意味での学問にはならない。この人はそう言いたかつたのだらうと思います。

どうかみなさんも、「暖かい心と冷徹な頭脳」をともにもち若き探求者として、自らの未来へとその第一歩を踏み出してください。

みなさまの輝かしい前途を祝して、お祝いの言葉に代えさせていただきます。本日は、本当におめでとうございませう。

在校生代表挨拶

二年八組

M・R

寒さも和らぎ、春の訪れを感じる風が吹く季節となりました。五十八期生の皆様、本日はご卒業おめでとうございませう。在校生一同、心よりお慶び申し上げます。

先輩方が真新しい制服に身を包んだ二〇二〇年四月、日本では第一回緊急事態宣言が発令されました。続く休校期間、入学式の中止、六月に分散登校が始まりつつも、様々な行事が縮小となり、部活も満足にできない毎日。先輩方の高校生活のスタートは決して満足のいくものではなかったことと思いません。

しかし先輩方はその現状をじつくりと見定め、創意工夫に溢れたアイデアで次々と難題に立ち向かってゆかれました。ニューノーマル時代の学校生活において、どう工夫すれば全員が安心して楽しむことができるのか考え、実現させる先輩方の姿は、私達後輩に希望の光を灯しました。

部活動や委員会活動においても、先輩方はいつもの確かなアドバイスをくださいました。意見がぶつかったこと、また、厳しい言葉をいただくこともありましたが、その全てが今の私達の成長の糧となっています。

今、私達の社会は大きな転換期を迎えています。しかし「真の学力を養い、正義と社会性を育み、人間として豊かな行き方をする」そんな「真善美」の精神を持った先輩方であれば、必ずやこの社会をより良い社会へと導いてくださるでしょう。先輩方はいつまでも私たちの憧れです。私たちが在校生も先輩方のように考え続け「全員が楽しむことができる中杉」を作っていきます。

最後になりましたが、今日が良い門出になることを強く願うとともに、五十八期生皆様の益々のご活躍をお祈りし、送辞の言葉とさせていただきます。

卒業生代表挨拶

三年一組

H・K



どこからか吹く風に、ほのかに花の香りを感じる季節となつて参りました。本日をもって私達五十八期生はこの学校を卒業します。新型コロナウイルスの影響で心のどこかで諦めていた、一人一人が保護者の方々に見守られながら卒業証書をいただく、そんなあたりまえの卒業式を今日行

えることは本当に嬉しい限りです。この様な形式で式を挙行するために尽力して下さった教職員の方々、この会場の設営に協力してくださった中杉生の皆様、ご多忙の中お

越しくださいましたご来賓の方々、そして私達を今日まで育ててくれた保護者の皆様に、五十八期を代表し厚く御礼申し上げます。

待ちに待った制服が家に届き心躍らせたあの日から、今日という日を迎えるまで月日は驚くほど早く過ぎていきました。私は小学五年生の時この学校の存在を知り、中学二年生の時に行った学校説明会で聞いた「何かをしたいをカタチにしたい」という言葉とその雰囲気惹かれてこの学校を目指し、卒業するこの時まで約五年間この学校のことを思っていたことになりました。そして今、この場に立つて話している事が今も信じられません。

私達五十八期は最もコロナウイルスに翻弄され、コロナと共に時代を歩んできた世代ではないでしょうか。感染拡大が起こるたびに学校生活も大きく変わっていきました。私達が今まで「あたりまえ」だと思っていたことが別の「あたりまえ」に上書きされ、その度に私たちが「正しい」と思っていたことは別の「正しさ」で塗り替えられ、何回も辛い思いもしました。入学式はなくなり、初めてクラスの人と顔を合わせたのは六月に入ってからでした。それからはずっと短縮授業で勉強についていくこともやつとでした。部活においても突然試合がなくなり、練習もなくなり、家で筋トレをするだけの日々が続ききました。一体何をモチベーションにして部活に取り組みれば良いのか悩むこともありました。何よりも、悔しかったのは、入つてくる後輩達のことを心から迎えられなかったことです。体育館に飾られた「第59回入学式」の文字を見て後輩たちが入ってくる嬉しさより、虚しい気持ちで一杯になりました。その時は「今の自分はコロナに負けてしまっている。」と気づき、目に見えないウイルスなんかは自分の高校生活を狂わされてなるものかと一日一日をより大切に、悔いのないようにと意識して過ごすようになりました。

コロナにより思い描いていた学校生活の多くは中止を余儀なくされましたが、これで終わる五十八期ではなかったと思つています。ここでは、緑苑祭を振り返りたいと思います。一年生の頃の緑苑祭はコロナウイルスの感染真っ只中、前例のない

オンラインという形で行われることになりました。動画作りに関する知識もないまさにゼロからの状態でした。動画なんてできっこないと思っていました。しかし、各自で役割分担をし、脚本、カメラ、演者それぞれが協力しながら一つの作品を無事作り上げることができました。仲間と協力して過ごした時間はかけがえのないものです。二年の緑苑祭では対面での実施でしたがコロナウィルスの感染真っ只中でした。どのように感染対策をとれば良いか、二日間のシフトはどうするか、部活動の出し物との両立をどう行うか、オンラインの時とは比べものにならないほど問題が立ち塞がりましたがクラスメイトと連絡を取り合い仲間と協力し冷静に対応することで無事成功する事ができました。三年の緑苑祭はコロナ前の形を取り戻すための第一歩のような行事となりました。実際たくさんのお客様が来てくださり、今までで一番大変でしたが、一番やりがいを感じた楽しい緑苑祭になりました。少しでも良いものを作ろうと知恵を絞って出し、今までの経験を活かし、自信を持って胸を張れるアトラクションを作りました。私達は行事を行うたび経験したことのない壁に直面し、そのたび仲間と協力して乗り越え、最高の思い出を作りました。私はこの学校生活で人との繋がりの大切さを知ることができました。一人ではどうしようもできないことも、仲間と協力することで新たな道を切り開くことができることを知りました。ありがたいことに、私は全ての学年でこのクラスメイトと出会えてよかったと思えるほど素晴らしい仲間と出会うことができました。その繋がりをこれからも大切にしていきたいです。

私達は今後大人として全ての行動の責任を自分で持つこととなります。自由にできる事が増えこれまで以上に行動の幅が広がりますが、それと同時に自分の行動に対する責任を自覚することが求められていきます。もう、私たちの行動を叱ってくれる先生方はいないので、

きつと私達はこれからの人生、失敗したり迷ったりするこ

ともたくさんあると思います。しかし忘れたい過去の過ちも、悔しかった日々も、楽しかった出来事も、そのすべての経験が私達の道標になり私達を支えてくれます。私達五十八期生はコロナ禍を経験したからこそ、どんな困難にも対応する力、新たなことにも恐れず挑戦する強さを育むことができました。この力はこれからの時代を生きていくために何よりも役に立つ力だと私は確信しています。この力を育むことができたのはコロナ禍で高校生活を過ごした私達だけの特権です。この力をどのようになかしていけるかは私達次第です。私は自分の信念に従って、何事も臆せず様々なことに挑戦し、やらなかったことを後悔することがないように生きていきたいです。

最後に五十八期生を支えてくれた先生方、皆様、私達は可哀想な学年だったでしょうか？私達の行事を全力で楽しむその姿はコロナ前の中杉生の姿と比べて霞んでいたでしょうか？もちろん辛い思いは何回もしました。しかし私はこの時代に五十八期生として学校生活を過ごせてよかったと心の底から思っています。学校行事やプロジェクト学習、部活動、課外活動を通してどんな困難が待っているようにとも仲間と協力し、乗り越えられることを知りました。新しいことに挑戦する事の楽しさも知りました。本当に最高の学校生活でした。何があっても進み続けたこの学校生活は何にも変えられない財産であり宝物です。

そしてお母さん、お父さん。こんな私を今まで育ててくださり本当にありがとうございます。私のしたいことを否定せず心から応援してくれたからこそ、今の自分があるのだと思います。

これからの中央大学杉並高等学校の卒業生代表の挨拶とさせていただきます。



コロナ禍以降、初の海外研修実施(マレーシア、オックスフォード)

長らく各種海外研修が中止となっていました。このたび、再開し2022年12月26日～29日にマレーシア研修を、2023年2月12日～27日にオックスフォード研修が実現。全行程を無事終え、渡航者全員で元気に帰ってくることができました。

マレーシア実地研修は2.3年生の有志30名が参加(※発熱により2名欠席)、「多文化共生」をテーマに、農村(カンポン)訪問や、ハラル開発公社訪問を行いました。

オックスフォード実地研修は3年生の有志30名が参加(※欠席者なし)、各家庭にホームステイし、大学での講義を受けました。最終日には、現地でのインタビュー等も取り入れたプロジェクトワークの成果をプレゼンし、充実した学びの機会を得ました。

この3学期からは初のターム留学も開始、2年生9名が3ヶ月間ニュージーランドで学んでいます。安全で充実した海外研修を、今後さらに展開していきたいと思ひます。



学校評価 アンケート結果報告

2022年11月に実施した「学校評価」のアンケート結果がまとまりました。回答数は生徒812名、保護者825名でした。ご協力ありがとうございました。選択肢(満足できる・やや満足できる・あまり満足できない・満足できない・わからない)のうち、「満足できる」「やや満足できる」という回答の割合を「満足度」として前回(2021年度)の結果と並べて示しました。■が今回、■が前回の満足度です。今回の回答を見ると、多くの項目において80%前後あるいはそれ以上の満足度が示されており、今年度も、本校の教育活動に一定の評価を得られていると考えられます。国際理解教育や高大一貫教育については、評価が上がっています。施設・設備については、猛暑への対応が十分でなかったこともあり、昨年度より低い評価となっています。今後とも、いただいたご意見を参考に計画を立てて参りたいと存じます。

本校の教育活動について



本校の教育環境について



本校の教育管理について



本校の教職員について



高校入学後の意識の変化について



総合



音楽祭

3年ぶりに中大のクレセントホールで行われた音楽祭(2月4日実施)。マスク着用の上、各クラスによる合唱を発表しました。選択音楽クラス・合唱同好会・音楽部・吹奏楽部・保護者合唱も成果を披露し盛り上がりました。各学年の結果と、富澤先生(本校芸術科)&森先生(中附高芸術科)による1,2年生への講評をここに掲載します。

2-1<明日へ>女声、良い声ですね(特に中音域)。曲想面にも工夫がみられました。シンコーペーションのリズムは、曲の終盤

に向かうあたりからも少し弾んだ感じで歌ってもよかったです。男声も押し付けられない柔らかな良い声で音程も綺麗でした。

さらに身体の重心の支えがきくと力強い声も表現できてくるでしょう。

2-2<大切なもの>女声、落ち着いた良い声質です。男声は言葉がよく聴こえてきました。押しつけがましくない好感の持

てる合唱でした。レガートをしっかり意識してフレーズを大事に歌えていました。曲想の変化を繊細に表現するのは難しかった

かもしれませんが、詞の世界観がよく伝わってくる合唱でした。

2-3<COSMOS>テノールの高音は音を上から取るようにしましょう。ファルセットの練習も効果的です。四声のハーモニ

ーをお互いがしっかり聴き、響きをきちんと感じ取りながら歌えていたと思います。歌に込める気持ちがよく伝わってきました。

2-4<プレゼント>女声は、支えをきかせながら高音を上+後ろに出すつもりで歌ってみると良いです。男声は全体的にもう

少し声を出しても良いかも。音程が良いので、ハーモニが美しい合唱に仕上がりました。立ち方が大変きれいでした。

2-5<僕のこと>歌詞一つ一つを丁寧に歌えていました。テノールの高音はファルセット(裏声)を上手く使うと効果的です。

ファルセットは張りを付けるつもりで歌うと、徐々にボリュームが増します。難しい編曲版でしたが、よく頑張りました。

2-6<いのちの名前>男声は子音を含め、言葉の発音が良かったです。音程はやや高めにしてみましょう。落ち着いた、

いい合唱に仕上がっていました。伸ばす音をきちんと楽譜どおりに伸ばせていたので、フレーズがつながり美しく聴こえました。

2-7<YELL>男声の入りは、それまでの女声をよく聴いてそれを大事に受け継ぐつもりで。女声の高音の crescendo は身

体全体を使い、支えをしっかりと意識した上で出してみると良いです。ポップス特有の細かいリズムは表現が難しいのですが、

きちんとメリハリを付けて歌えており、リズム感が良いと感じました。

2-8<群青>歌に優しさが滲んでいてとても良かったです。無理のない発声も好感が持てました。歌い終わりの音は、少し気

を使ってやや高めにするときれいに聴こえます。詞の意味をちゃんと考えながら歌っていることが伝わってきました。

1-1<RAIN>皆さん、いい声で良く歌えています。女声はもう少し声に厚みのある音を出すことができそうです。口を縦に。

表現はよく勉強していて素晴らしいです。中間部のピアノの表情豊かな間奏が次に続く歌を自然に引き出していました。

1-2<友~旅立ちの時~>歌の入りが難しいですが、大切に歌えていたと思います。男声の音量はありましたが、ところど

ころ丁寧さが必要かと感じました。女声、良い声です。掛け合いの部分は不安定にならないように、より説得力を持たせるつ

もりで歌いましょう。最後の2ページの歌い方に表現の工夫が感じられました。

1-3<青い鳥>男声、声色がとても良いです。口の開け方も理想的なのでしょう。女声も良い声です。「♪もう一度」の女声

はもう少し緊張感をもって歌えると良かったかもしれません。各声部のバランスをきちんと考えて歌えていました。盛り上がる

部分だけでなく、繊細に優しく歌うところの感情の込め方も上手で、堂々とした歌いぶりでした。

1-4<点描の唄>男声、もっと出して。途中の「見てよ見てよ見て」の歌い方がややきつく聴こえたのが残念。詞に合う

表現をいろいろ工夫できると良いですね。声質が素直で好感が持てました。自分達で楽譜を作ったとのことで感心しました。

1-5<言葉にすれば>最初の2ページ、音程も下からずソロも素敵でした。曲後半のクライマックスでバラつきが出たのが悔

やまれます。各パートの音程にも気を配りましょう。何より一体感が感じられ、のびのびと歌えていたことが印象的でした。

1-6<群青>テンポが速いので難しかったと思いますが、指揮をよく見て歌えていました。時々フレーズが少し途切れて聴こ

える部分があったのが残念でした。指揮、伴奏、歌とも集中力を切らさず、曲全体を大きく捉えて歌えていました。難曲なの

に、よくここまで仕上げました。

1-7<ふるさと>女声は高音にいくにつれて響きを上に集めて声を出すことが上手にできていました。支えがあると更に良

いです。男声のバルトンの良い声が聴こえました。メロディーが下がってくところは音程が

低くなりがちですから気を付けましょう。歌い終わりは丁寧に表現してみましょう。

1-8<空も飛べるはず>女声、男声ともに歌詞を丁寧に発音していて良かったです。

男声は、マスクの中なのでなかなかやりづらいですが口の動きを「縦」にすると音が平たく

ならず、響きを伴った声が出るかもしれません。縦がずれるところがあったので、1拍目など落ち着いて大切に歌いましょう。



♪1年生部門♪

～音楽クラスの部～

【金賞・芸術科大賞・学年主任賞】

1年3組 「青い鳥」

【銀賞】

1年1組 「RAIN」

～美術クラスの部～

【金賞・芸術科大賞】

1年8組 「空も飛べるはず」

【指揮者賞】

K・Y(3組)

【伴奏者賞】

N・R(5組)

♪2年生部門♪

【金賞・学年主任賞】

2年6組 「いのちの名前」

【銀賞・芸術科大賞】

2年8組 「群青」

【銅賞】

2年3組 「COSMOS」

【指揮者賞】

O・N(2組)

【伴奏者賞】

A・R(8組)

♪3年生部門♪

【金賞・芸術科大賞】

3年1組 「スパークル」

【銀賞・校長賞】

3年3組 「あなたへ

—旅立ちに寄せるメッセージ」

【銅賞】

3年2組 「春愁」

【学年主任賞】

3年8組 「正解」

【指揮者賞】

Y・S(8組)

【伴奏者賞】

K・K(9組)

退職される教員より

国語科・伊藤好美先生

一年間、大変お世話になりました。中杉では学ぶことが多く、毎日があつという間に過ぎていったように感じます。何事にも真剣に取り組む生徒の皆さんと、研究熱心な先生方からたくさんの刺激をいただきました。本当にありがとうございました。

数学科・家本繁先生

今年度をもって、13年間お世話になった中杉を退職することになりました。中杉は生徒だけでなく、私のような教員にとっても様々なことを学び、挑戦できる機会に恵まれた素晴らしい学校でした。時代が大きく変わっていく中、新しい教育のあり方を共に模索させていただいた経験は、私にとって大きな財産となりました。皆様のご健勝と中杉のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

外国語科・滝澤孝先生

33年間の中杉での教員生活を振り返ると、どの期の生徒達もとても優しく、潜在能力に溢れ、将来どんな大人になるのだろうと、いつも楽しみにしていました。卒業後も、彼らから就職や結婚、様々な報告や相談の連絡があるたび、彼らと会って話ができるというのは、中杉の一人一人の生徒を大切にしている教育の証であると思います。

私自身、生徒達からいつもエネルギーをもらい、教員としての初心に戻る事の大切さに気付かされ、周りの先輩や同僚の先生方に育てられ、事務室・保健室はじめ全ての方々に助けられてきました。33年間の中杉での教員生活を全うすることができたのも、常に私の周りには私を助けてくれる生徒達や仲間がいたからです。心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

今年度を持ちまして中杉を離れる教諭より、ご挨拶を寄せていただきました。(4年間の任期を終えられ中央大学に戻られる大田校長先生のご挨拶は、4月号に掲載いたします。)



3学期行事報告

それぞれの学年ブログ(58・59・60期)でも詳細な報告を行っています。どうぞご覧ください。

- 2学年研修旅行(1月11~14日):3泊4日で関西方面へ。能楽堂やシサム工房を訪れ、自主研修や体験学習を存分に楽しみました。
- 3学年卒論発表会(1月11日):本校卒業生(大学生)16名をゲストに迎え、分科会形式で全員が卒論発表を行いました。
- 1学年フィールドワーク(1月12日):「探究」の授業で学んできたSDGsが、社会でどのように実践されているか各地で確認しました。
- 3学年日帰り遠足(1月12日):卒業準備委員が中心となって企画運営し、お台場でフォトロゲイニングとランチクルーズを楽しみました。
- 附属4校合同スピーチコンテスト(1月14日)、合同研究発表会(2月18日):中大横浜高で実施。附属生同士で学習の成果を披露しました。
- 文化講演会(1月28日):観音寺のご住職・田中法生師による講演会を視聴覚室にて行いました。生徒保護者共お話を聞き入りました。
- PBL研究発表会(2月15日):3年生3名が優秀論文を発表し、後輩に論文作成時のエピソードを語りました。

2023年4月よりコロナ前の時程に戻し、**8:40登校・朝学習実施・50分授業**となります。
よりいっそう、教育活動を充実させて参りたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

クラブ・有志活動掲示板

吹奏楽部 2022TAMA アンサンブルフェスタ 木管8重奏 金賞・特別賞 金管8重奏 金賞
第46回東京都高等学校アンサンブルコンテスト 金管8重奏 金賞 打楽器3重奏 銀賞
第8回東京都吹奏楽新人大会 銀賞

附属4校合同スピーチコンテスト 最優秀賞:Y・Uさん 発音・アピール部門:N・Kさん

オンライン高校生模擬裁判選手権 優勝(3月19日に「日本一決定戦」が行われます)

日本学術会議公開シンポジウム「18歳と司法への市民参加」 登壇者:I・Hさん、K・Yさん、M・Nさん

SB Student Ambassador 全国大会 出場者:K・Sさん、N・Yさん、Y・Cさん、M・Aさん

各種俳句コンテスト H・Mさん他、土曜講座「Let's 5 7 5 俳句講座」受講者全員が特選・入選の快挙!

定期演奏会に

ぜひお越しください!

3月25日(土)

16:00 開場 16:30 開演

於・杉並公会堂

(全席自由・入場無料)



卒業生進路(58期生)

2022年度進学・中央大学学部別推薦者数			
学部	学科・専攻・コース		決定人数
法学部	法律学科		52
	国際企業関係法学科		10
	政治学科		22
経済学部	経済学科		15
	経済情報システム学科		12
	国際経済学科		12
	公共・環境経済学科		9
商学部	経営学科	フレックス・コース	10
		フレックス Plus1・コース	6
	会計学科	フレックス・コース	10
		フレックス Plus1・コース	6
	国際マーケティング学科	フレックス・コース	10
		フレックス Plus1・コース	6
	金融学科	フレックス・コース	5
		フレックス Plus1・コース	2
理工学部	数学科		0
	物理学科		3
	都市環境学科		4
	精密機械工学科		5
	電気電子情報通信工学科		6
	応用化学科		3
	ビジネスデータサイエンス学科		6
	情報工学科		4
	生命科学科		2
	人間総合理工学科		5
文学部	人文社会学科	国文学専攻	3
		英語文学文化専攻	2
		ドイツ語文学文化専攻	0
		フランス語文学文化専攻	0
		中国言語文化専攻	1
		日本史学専攻	4
		東洋史学専攻	0
		西洋史学専攻	1
		哲学専攻	3
		社会学専攻	2
		社会情報学専攻	3
		教育学専攻	2
		心理学専攻	4
学びのパスポートプログラム	2		
総合政策学部	政策科学科	10	
	国際政策文化学科	10	
国際経営学部	国際経営学科	7	
国際情報学部	国際情報学科	7	

* 58期生の91.6%(286名)が中央大学へ推薦されました

【国立大学】

信州大学 医学部医学科 (1名)
 千葉大学 理学部物理学科 (1名)
 東京外国語大学 国際社会学部国際社会学科 (1名)
 国際社会学部中央ヨーロッパ専攻 (1名)
 教育学部B類英語コース (1名)
 工学院 (1名)
 東京学芸大学 総合理系化学重点 (1名)
 東京工業大学 総合理系総合科学選抜 (1名)
 北海道大学

【私立大学】

青山学院大学 国際政治経済学部
 国際コミュニケーション学科 (1名)
 コミュニティ人間科学コミュニティ人間科学科 (1名)
 地球社会共生学部
 地球社会共生学科 (1名)
 跡見学園女子大学 マネジメント学部マネジメント学科 (1名)
 慶応義塾大学 商学部 (1名)
 文学部 (2名)
 埼玉工業大学 情報学部AI専攻 (1名)
 芝浦工業大学 工学部情報工学科 (2名)
 工学部電気工学科 (1名)
 大正大学 地域創生学部地域創成学科 (1名)
 上智大学 文学部英文学科 (1名)
 理工学部機能創造理工学科 (1名)
 理工学部情報理工学科 (1名)
 中央大学 ※外部受験 法学部政治学科 (1名)
 法学部法律学科 (1名)
 総合政策学部国際政策文化学科 (1名)
 津田塾大学 学芸学部国際関係学科 (1名)
 東京経済大学 経営学部流通マーケティング学科 (1名)
 東京農業大学 生命科学部バイオサイエンス学科 (1名)
 東京理科大学 経営学部経営学科 (1名)
 経営学部国際経営学専攻 (2名)
 工学部建築学科 (1名)
 創域理工学部情報計算科学科 (2名)
 創域理工学部建築学科 (1名)
 東京薬科大学 薬学部薬学科 (1名)
 日本大学 工学部生命応用化学科 (1名)
 文理学部情報科学科 (1名)
 生命科学部生命機能A方式 (1名)
 法政大学 理工学部情報科学科 (1名)
 明治大学 現代心理学部心理学科 (1名)
 立教大学 基幹理工学部 (1名)
 早稲田大学 (2022年3月18日現在の合格報告状況、過年度生含む)

事務室より

春休み中の取扱時間は、平日 9:00~17:00(3月中は 10:00~)。
 昼休み:12:00~13:00)、土曜日 9:00~12:00 です。

図書室より

春休み中の利用可能時間は平日の 9:00~17:00 です。
 春休み中の土曜日は全て閉室です。

未返却本がある人は、必ず返却して下さい。



保健室より

春休み中の開室時間は平日(9:00~17:00)&土曜日(9:00~12:00)です。気になることがあれば、どうぞお電話を下さい。

【編集部より】一年間のご愛読感謝いたします。来年度もどうぞよろしく願います。(小泉・鈴木)